

平成 30 年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況

【平成 30 年度美術館協議会(平成 30 年 11 月 21 日開催)】

主な意見要望等	対応状況
<p>岩手県博物館等連絡協議会のパンフレットを見て、まだ行ったことが無い館を訪ねたが知られていない施設が見受けられる。例えば加盟館の中でスタンプラリーを実施して、達成すると次の館の観覧料が無料になるとしたら、他館も含めて集客に繋がるのではないかとと思われる。もりとびあねっとや県内全域を対象とした取り組みを期待したい。岩手県博物館等連絡館と館との割引制度があればよい。近隣の施設との連携はどうか。</p>	<p>(回答)現状では、盛岡市の施設同士の割引制度はあるが、県と市のつながりはない。しかし、近隣施設各館とのつながりは、「もりとびあねっと」による地域連携事業として展開している(定例会年3回、もりとびあねっとだより年3回発行)。継続して実施しているスタンプラリーは、景品が無くなり次第終了となるが、別な業務が展開できるか協議中である。今後、盛岡市中央公園との関り方も重要になってくるのではないかと(いわて盛岡シティマラソンゴール地点)。</p>
<p>資料 2 (本協議会における割引制度等に関する主な意見・要望と他館の例)の割引制度に関して、来年度以降実施する予定の割引制度はあるのか。</p>	<p>(当日回答)制度設計や県との調整も必要となることから時間を要するが、他館でも多く実施している、例えばリピーター割引を実施させたいと考えている。割引の内容や方法等色々なやり方があるので他館の事例を参考にしながら検討を重ねていきたい。</p>
<p>夜間延長開館としてナイトミュージアムを開催しているが、企画展開催中に合わせ夏場だけでも週に1回、例えば金曜日とか延長開館できないものなのか。</p>	<p>(当日回答)良いアイデアと思うが、再委託職員含む全ての職員の勤務体制を調整する必要もあり、検討を要する取組みと考える。他に、例えば冬場は夕方を過ぎると来館者が減る傾向があるので、開館時間を短くすることも考えられることから、総合的に判断して検討していきたい。</p>
<p>プレママ割引やマタニティ割引を導入していただきたい。情動的にとっても良いと思う。</p>	<p>(回答)割引制度の導入については、本年度新たにジブリ展で早割を導入したが、成果はあったと認識している。本協議会でも様々な割引券の提案を頂戴しているので、引続き関係機関とも協議しながら前向きに検討していきたい。</p>
<p>以前勤務していた職場で、盛岡中央地区高校教職員の厚生福利事業に携わっており、その事業として県立博物館の観覧と学芸員が先導するバックヤード見学を企画したところ、参加した先生方から好評で、その時の話題を生徒たちに話した結果、後日生徒も博物館に足を運んだそうだ。これに対し今年盛岡南地区の同厚生福利事業が県立美術館だったので来館したが、ただチケットを受け取り自由見学だけだったので、こういう部分も少し考えれば集客に結び付くと思う。また、各高校の美術部の生徒を対象とした観覧料の減免を考えて欲しい。</p>	<p>(当日回答)当館でも2カ月に1回バックヤードを歩く「てくてくツアー」を実施している。学校単位で実施する「教育プログラム」という事業があり、20名位であれば学芸調査員が同行しながら30分程度の時間でバックヤードも視察することができるので活用して欲しい。</p>
<p>「アートデオヤコ」は8回実施で484人の実績があるが、1回当たり何名で実施しているのか。</p>	<p>(当日回答)毎月1回当たり10家族定員、約22人で実施しているが、5月5日は「アートデオヤコこどもの日スペシャル」として定員なしで多数の参加者を受け付けるので参加人数が伸びている。</p>

<p>当校にも届いた「ムナーリからの招待状」はとても良い事業である。生徒の保護者から、親子で観覧してとても良い時間を過ごせたとの報告を受けた。入館者数も大事だが、美術館の役割や価値も大事にしてほしい。また、このパスポートの活用状況が分かれば教えていただきたい。</p>	<p>(当日回答) 地域限定で約 26,000 枚を配布し、約 780 人の生徒と保護者約 800 人が来館した。</p> <p>(※当協議会終了後確認したところ、855 人の生徒と保護者 876 人の来館数であった。)</p>
<p>次年度も「ムナーリからの招待状」のような事業は実施するののか。</p>	<p>(当日回答) 企画展の内容等を考慮しながら、今後検討していきたい。</p>
<p>ブルーノ・ムナーリ展の学芸員講座タイトルに「必然と偶然」と付けられており、一般的な感想として難しそうなタイトルだという声も聞かれ、美²フェス（びびフェス）というタイトルも意味が分かり辛い印象を受けたことから、もう少し一般目線を意識したメッセージの出し方を考えて欲しい。内容は良いのに損をしていると感じてしまう。</p>	<p>(当日回答) 企画展タイトルも難しいと思われたが、巡回展なので館単独で変更は出来ないという事情もある。タイトルに関してはサブタイトルに分かりやすい表現を用いる等、十分注意したい。</p>
<p>今までも素晴らしい自主企画展示を開催している事から、もう少し自主企画の開催を増やせないののか。企画展で増やせないのなら、せめて常設展で自主企画を増やした方が良い。については、その自主企画をもっとアピールしなければ、勿体ないと思う。</p> <p>また、観覧料の割引きの件であるが、比較的近隣の方には効果的だと思うが、県内沿岸部や県南部から時間をかけて来館する方々にとって、割引になるから行くということにはならないと思う。それよりも、ここでしか見られない展覧会の内容を企画し、これをアピールすることが集客に繋がると思う。</p> <p>さらに、今年度の実績を見ると、外部講師や館長の講座等の参加者が少ないように思われるので、集客の工夫をして欲しい。</p>	<p>(当日回答) 自主企画展については、調査研究に時間を要することや検討事項も多いので、主として常設展示の中で行うことで考えている。また、常設展の広報はチラシ・ポスター等で行っているが、集客力が弱いことから「常設」という言葉の響きが影響しているように思う。他館のように「コレクション展示」というネーミングの方がイメージが良いと考える。</p> <p>割引きについて、今年度から全企画展の前売券をコンビニやプレイガイド各店で購入できるので、遠隔地からの来館者も増えたと感じるが、委員が言われたように内容で集客出来るように頑張りたい。</p> <p>また、館長と学芸員で自主企画の調査研究について話し合いを行っており、時間を要するが、良い自主企画を開催したいと考えている。</p>
<p>委員の職に就くまで年 4 回も展示替えを行っていることは知らなかった。もっとマスコミ等で PR した方が良くし、学校関係にも美術系や部活動の生徒もいるので PR して欲しい。</p>	<p>(回答) 限られた予算の中ではあるが、広報宣伝に努めている。学校向けにも常時情報提供を展開している。広報宣伝の展開にも実行委員会方式で培ったノウハウを生かせるよう創意工夫のうえ、盛り込んでいきたいと考えている。</p>
<p>美術館コレクションの中から年代別に作家を取り上げ、作品とその時代をテーマとした常設展特集を企画して欲しい。また、子どもが楽しめる企画もお願いしたい。</p>	<p>(回答) 一つのアイデアとして承り、今後の参考にさせていただく。子どもに向けた特集も時折開催している。</p>
<p>企画展を見た方がそのまま常設展を見ていく方は半数ぐらいと思われるので、誘導対策として、企画展示室出口に常設展ポスター以外の広報物も追加して、興味を引くような仕掛けをしたり、常設展示を見ない方に直接理由を聞いてみるとか方法はあると思う。</p> <p>また、自主企画展を年間 1,2 本は開催して欲しい。</p>	<p>(回答) 常設展への誘導については、改善の余地があるので、引続き検討する。</p> <p>岩手の作家や作品をテーマとした自主企画展については、年に 1 本は開催する予定としており、そのつもりで調査研究を進めるようにしている。</p>

<p>若い方から美術館についての意見を聞くことはあるのか。</p>	<p>(当日回答) 昨年度、岩手大学と盛岡大学の美術関連を学んでいる学生に対してアンケート調査を行っており、来館しない理由は「お金が無い、時間が無い、キッカケが無い」ということであった。総じて、来館して作品を観て楽しむよりも、もっと他に楽しいことが有るので足が向かないことをアンケートからは読み取れた。情報は届いているのかということに関してだが、館の広報として今までは新聞での広報に力を入れていたが、学生は新聞を殆ど読まない反面、テレビやインターネットをよく見る傾向であることから、今後そちらにも注力すべきと考える。</p>
<p>ある程度来館者数が見込める企画展の時のアンケート内容を工夫して、なぜ常設展を見ないのかとか盛り込んでみたらどうか。</p>	<p>(当日回答) アンケートを工夫することや、直接生の声を聴くことも大事だと思うので、検討したい。</p>
<p>県立美術館は県民のための美術館だと思うが、距離感を感じてしまう。この理由として、参加型のギャラリーではないということもあり、県民は提供される側という立場である。逆にワークショップやコンサート等は参加型なので、人気が高いと思われる。</p> <p>大学生の卒業制作展や小中学生の作品展等で展示できるようなスペースが欲しいので検討して欲しい。</p> <p>また、「岩手の美術」という視点が弱いように感じるので、岩手の若手作家や子どもたちも含めて取り上げて欲しいので、その役割も担ってもらえるような運営をお願いしたい。</p> <p>県民の芸術に対する精神性や感性を高めていくためにも、参加型の事業を増やして欲しいし、子どもからお年寄りまで集える場所であって欲しいので、検討していただきたい。</p>	<p>(当日回答) 美術館も開館から 16 年を経過し、当初の基本理念や運営方針を継続してきたが、色々なご意見をいただいていることから検討すべき事項と認識している。県民が発表できるギャラリー等様々な問題はあるが、少しずつ検討していきたいと考えているので、ご理解いただきたい。</p> <p>補足だが、当初より当館は展覧会や教育普及事業に専念する施設とする旨整備方針が定められており、他施設との役割分担も念頭におき、施設貸出しはしないこととしている等制約がある。しかしながら、委員から提案された件については、少しずつ検討していきたい。</p> <p>(追加回答) 貸しギャラリー運営や参加型事業を拡充し展開していくには、何よりもマンパワーと予算の確保が重要と考える。</p>